

Web・動画クリエイター養成（空）コースの実施報告と展望

岡村健史郎* 北風裕教** 岩見靖子*** 宮元章****

吉村和也**** 舛井美佳子**** 岡宅泰邦*

Results and Discussion on Training Course For Web Site Designer and Video Editor

Kenshiro OKAMURA, Hironori KITAKAZE, Yasuko IWAMI, Akira MIYAMOTO,
Kazuya YOSHIMURA, Mikako MASUI and Yasukuni OKATAKU

Abstract

Oshima National College of Maritime Technology has been promoting the project to rejuvenate Suo-Oshima town using funds from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. This project plan consists of one basic and three advanced courses to develop participants as the entrepreneur using micro business. Web site designer and video editor course which is named as “sora course” for short is one of these advanced courses and is the class for the people who want to be web site designers and video editors.

In this paper, we discuss the contents, the training method and the results of this course as the annual report in a 5-year project. Then, we show the future plan of this course.

Key words: local reactivation, reactivation of Suo-Oshima town, entrepreneur training, Ministry of Education

1. 緒言

文部科学省科学技術振興調整費、地域再生人材創出拠点の形成に大島商船高等専門学校（以下、本校と呼ぶ）が企画した地域再生プロジェクト「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」（以下、通称である“島スクエア”と呼ぶ）が平成20年度に採択され、今年度で4年目の活動を迎えた[1-8]。

島スクエアプロジェクトにおいては、事業主体者が個人や少人数のマイクロビジネスの集合体が過疎化・少子高齢化の町で地域再生に導くという仮説を立て、マイクロビジネスの起業家育成講座を地元で起業を考える希望者へ無料で提供している[9],[10]。島スクエアでは、マイクロビジネスを学ぶために1つの基礎コース「起業家養成基礎（島）コース」と3つの応用コース「商品開発起業（山）コース」、「体験型観光起業（海）コース」、「Web・動画クリエイター養成（空）コース」、そして特別コースを設けることでステップアップしながら、起業家マインドを教育する体制を整えてきている。

特にWeb・動画クリエイター養成（空）コースにおいては、情報教育を行うことができる講師が本校の教職員として揃っているだけでなく、教育のためのコンピュータとソフトウェアなどの設備が本校に整っており、受講生に対して最先端の情報技術を提供できる環境を有している。本プロジェクトがスタートして4年目を迎えた現在、Web・動画クリエイター養成（空）コースの地域再生に与える影響を検討する段階になってきた。

本論文では、Web・動画クリエイター養成（空）コースの講座の役割と目標、カリキュラムと修了要件など概要を含め、平成21、22年度の講座運営実績と平成23年度の受講者の受講状況などを報告し、講座運営上で明らかになった点、工夫した点、受講生による講座のアンケート結果についてまとめ、地域再生に与えた影響について述べる。また、講座運営の在り方、問題点を考察し、今後の本コースの講座のあり方について報告する。

2. 地域再生における Web・動画クリエイター養成(空)コースの講義内容

Web・動画クリエイター養成(空)コースの概要、その役割と目標、カリキュラムと修了要件、修了状況ならびに、授業の様子について述べる。

2.1 Web・動画クリエイター養成(空)コースの目標と講義概要

Web・動画クリエイター養成(空)コースは、コンピュータでのチラシ作成と POP 広告等の作成、インターネットや動画を活用した情報発信したい人を対象に写真やイラスト等の画像の編集、Web サイトの制作、ショッピングサイトの構築概要、動画の企画や撮影、そして編集や配信等の基礎を講義する。受講生は、

- ・ 特産物の販売や体験学習・宿泊の予約が出来るインターネットサイトの構築・運営を仕事とする
- ・ 商品販売や観光サービスを提供している事業者自らがインターネットを活用して、商品情報や動画を情報発信し、事業者のビジネスを活性化することを目指すことになる。

講座は、特にビジネス情報発信で重要となる以下の技術を習得できるよう設定してある。

- ・ チラシ、名刺、POP 広告などの印刷物の作成
- ・ インターネットでのホームページ作成
- ・ 商品をイメージさせるロゴやバナーの作成
- ・ 商品を魅力的に見せる動画撮影とその編集加工方法

講座概要を表 1 に示す。講座は 22 回で、内容は大きく分けると四つの部分から成り立つ。講義は、上記の技術習得が可能で広く使われているアプリケーションソフトを使い、市販のテキストをもとに使用方法を説明した後、各自のオリジナルな作品を完成する内容になっている。

本コースの運営は、岡村がコース推進リーダーを、北風と岩見が講座テキスト作成・管理を、宮元、吉村、舛井が講師および講座運営を、岡宅が修了生、戦略委員による受講生支援を主に担当した。

表 1 講義概要

内 容	使用する主なアプリケーションソフト	講座回数	講師 補助スタッフ
デザイン及びショッピングサイトの基礎	-	2	学外講師 各 1 名 学内補助スタッフ 5 名
自分用のロゴと印刷物(名刺)作成	Adobe Photoshop Adobe Illustrator	4	本校技術職員 1 名 学内補助スタッフ 4 名
ホームページ作成	Adobe Dreamweaver	7	本校技術職員 1 名 学内補助スタッフ 4 名
動画 CM 作成	Adobe Premiere Adobe After Effects	9	学外講師 各 1 名 学内補助スタッフ 5 名

2.2 カリキュラム詳細

表 2 に、平成 23 年度の Web・動画クリエイター養成(空)コースの詳細なカリキュラムを示す。平成 21 年度では、講座は全 28 回の講座であったが、年度末に開いているフォーラムに作品完成が間に合わないなどの理由から、平成 23 年度は 6 講座減らした全 22 回の講座へ修正して実施している。コースの将来像としてホームページ制作やインターネットサイトの構築運営を目指しているため、ホームページ制作等を経験したことのない受講者にとっては、技術レベルの高い内容になっている。講義時間はいずれも夕方 7 時から 9 時までの 2 時間に設定している。

第 1 回のデザイン基礎にて、色、フォント、ブロックの配置方法などの印刷物、ホームページなどに共通するデザインの基礎について学ぶ。第 2 回～ 5 回では、ホームページ作成ソフトである Adobe 社[11]の Photoshop と Illustrator を使って実習形式で学ぶ。更に、各自のビジネステーマを表すロゴを作成し、このロゴの入ったオリジナルな名刺を作成する。この段階で、表 2 にある講義以外に 2, 3 回程度の自習が必要になる。次に、第 6 回～ 12 回で Adobe 社の Dreamweaver の基本的な使い方を学び、ホームページのトップページ部分をデザインする。ほとんどの受講者が HTML や CSS といったマークアップ言語を使ったホームページ作成は初体験のため、技術習得を確実にするため最低限 4～5 回程度の自習が必要と、表 2 以外に 3 回(1 回 3 時間～半日)程度、スタッフ[9,10]が補習による対応を行な

った。

表2 平成23年度 Web・動画クリエイター養成(空)コースのカリキュラム(Webサイト構築)

講義番号	日時	講座名	講義内容	
1	5月25日(水)	デザイン基礎 (1)	デザインに関する講義(色彩・操作性などの印刷物, Web, 動画全てに共通するデザインにおける基礎知識)	
2	6月1日(水)	2D 画像処理	オリジナルのロゴやキャラクター作り(Illustratorの基本操作, ロゴやキャラクター作りの基本, 直線・ベジェ曲線・色を塗る...など)	
3	6月15日(水)		オリジナルのロゴやキャラクター作り(Illustratorでロゴを作る)	
4	6月22日(水)		オリジナルのロゴやキャラクター用いた名刺作り1 (Photoshopの基本操作・写真補正・合成写真)	
5	6月29日(水)		オリジナルのロゴやキャラクター用いた名刺作り2 (PhotoshopとIllustratorを活用して名刺の作成)	
6	7月6日(水)		Web サイト 構築	Webサイト構築ソフトウェアの学習(1) (Webサイト作成ソフト(Dreamweaver)の基本操作)
7	7月13日(水)	Webサイト構築ソフトウェアの学習(2) (Dreamweaverによるタグの編集とリンクの設定)		
8	7月27日(水)	Webサイト構築ソフトウェアの学習(3) (CSSについての学習およびDreamweaverによるCSSの編集)		
9	8月3日(水)	Webサイト構築ソフトウェアの学習(4)(DreamweaverによるCSSの編集)		
10	8月9日(火)	Webサイト構築ソフトウェアの学習(5)(Dreamweaverによるボックスレイアウトの編集)Webサイト構築演習(1)(トップページのレイアウト)		
11	10月5日(水)	Webサイト構築演習(2) (各自でWebサイトを構築およびアップロード)		
12	10月12日(水)	Webサイト構築演習(3) (各自でWebサイトを構築および制作発表)		
13	10月19日(水)	ショッピング サイト構築		ショッピングサイトについて学ぶ (ショッピングサイトを開く方法と注意点)
14	10月26日(水)	動画 CM 制作		動画CM作成現場について学ぶ(CM作りの工程とは, CMの目的, 表現形式, 絵コンテ, 企画書について)
15	11月2日(水)			動画CMの企画書作成 テーマは, 基本的には個人の希望で作成
16	11月9日(水)		撮影テクニックを学ぶ(デジタルカメラ・ビデオカメラ)	
17	11月16日(水)		動画作成ソフトウェアの学習(1) (Premiereの基本操作, 素材の変換, 読み込み, タイムライン編集)	
18	11月30日(水)		動画作成ソフトウェアの学習(2) (Premiereによる映像の合成, トランジション, 特殊効果)	
19	12月14日(水)		動画作成ソフトウェアの学習(3) (Premiereによるタイトル作成, 映像書き出し)	
20	12月21日(水)		動画作成ソフトウェアの学習(4)(After Effectsによる機能紹介)	
21	1月11日(水)		動画CM作成演習(1)(各自で動画CMを作成)	
22	1月18日(水)		動画CM作成演習(2)(各自で動画CMを作成および上映・講評)	

第14回~22回では、ビデオ編集ソフトのAdobe社のPremiereの使い方を学んだ後、30秒CMの作成を行う。周防大島町では平成22年よりケーブルテレビの放送が始まった。この放送局などでも使える番組作成が出来るよう、企画書や絵コンテの作成から始め、様々な撮影テクニックを学んだ後、各自が撮影した動画を編集しCM作品を完成する。完成には2回程度の自習が必要になる。

本コースの内容は印刷物やホームページ制作等を一度も経験したことのない人にとっては技術レベ

ルが高く、22回の講座以外に自習も必要になる。そのためインターネットを使った情報発信に興味があっても、技術や時間がない人は、容易には受講できない。そこで平成22年度には、島スクエアの各コースの修了生(空コースを除く)と、空コースの受け入れ面接後に、受講を断念された方を対象として、Web基礎特別講座という6回の特別講座(表3)を実施した。内容は、受講者が最も興味があるショッピングサイトの構築・運営に関する講義を実施した後、画像の加工・編集に関する実習を、Photoshop Elementsを使って行う。その後、ホームページビルダーを使って、ひな形を利用したホームページ作成について学ぶ。第2回～6回は実習形式である。

表3 特別講座(Web基礎講座)

講義番号	講義内容	使用アプリケーションソフト
1	ショッピングサイトについて学ぶ	-
2	画像処理演習(1)	Adobe Photoshop Elements
3	画像処理演習(2)	Adobe Photoshop Elements
4	ホームページについて学ぶ	IBM ホームページビルダー
5	ホームページ作成演習(1)	IBM ホームページビルダー
6	ホームページ作成演習(2)	IBM ホームページビルダー

2.3 修了要件

Web・動画クリエイター養成(空)コースの修了認定基準は、次の3つの条件を全てクリアすることとした。条件1は出席に関する条件であり、条件2と条件3は内容に関する条件である。出席に関しては、出席率80%という高い出席率を要求した。受講生の多くは、働きながら講座を受講しているため、修了できる受講生は限られた者だけになる。このことを配慮し、DVD受講を認め、後日視聴後に講師によって与えられたレポートを記述し提出してもらうことで、出席扱いとした。ただし、条件2と条件3に関しては全講座とも共通しており、起業に必要な基礎知識の習得項目として必要であることから、軽減措置はとらないものとした。

Web・動画クリエイター養成(空)コースの修了要件

条件1

講座への出席率が80%以上である。ただし、この出席率80%の中には、DVD受講出席を含む。DVD受講出席とは、欠席した講義を撮影したDVDで自習してレポートを提出し、講座担当者が受理したものを指す。また、全講義の50%以上(12回以上)が実出席でなければならない。

条件2

名刺、ホームページのトップページ、30秒動画CMの三作品を制作し、提出すること。

条件3

条件2で作成した三つの作品のいずれか一つ以上を、年度末に行われるフォーラムにて展示・上映することにより、コース関係者以外の一般の方に公開する。

2.4 受講状況

受講生の募集は、広報誌の掲載や新聞の折り込みなどによって募った。受講生には、事前に講座の説明会を実施することで、講座の役割・目的などの趣旨を十分に説明し、カリキュラムと修了要件を十分に理解してもらった。さらに、面接を行い志望動機が本プロジェクトを遂行する上で問題がないか、これまでのコンピュータのキャリアがどの程度あり、講座に適應できるかを事前に確認し、受講生を決定した。

平成21年度から平成23年度までの受講生数と修了生数、および途中辞退者数を表4に示す。平成21年において、17名の受講者に対して5名の途中辞退者が出た。コースの内容は印刷物やホームペー

ジ制作等を一度も経験したことのない人にとっては講義レベルが高く、習得したい技術とは違っていった点が主な辞退理由であった。そこで、このような講義レベルと受講者の技術レベルのミスマッチを無くすため、次年度から受講者決定面接において、これまでに作成したことのある印刷物やDVD、ホームページなどを持参してもらい、受講者の技術レベルを判断するようにした。この結果、平成22年度では途中辞退者を、転勤理由による1名へと減少させることができた。

表5に修了生の年代別の人数を示す。日頃からインターネットを中心とした情報発信に接している30代が最も多い。次に50代が多い。この年代の受講者には、早期退職等の理由により会社を離れた人が、新しい生活の糧として自分でビジネスを始めようと考えている人が多い。一方、情報関連の技術や知識が豊富な10代や20代が少ないが、この年代はビジネスに関する意識が高くないため受講に至らなかったと思われる。

表4 受講者数と修了者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
受講者数	17名	12名	11名
修了者数	12名	11名	受講途中
途中辞退者	5名	1名	受講途中

表5 修了生の年代と人数

修了生年代	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (修了予定)	合計
60代	0名	2名	2名	4名
50代	4名	0名	4名	8名
40代	2名	1名	2名	5名
30代	1名	8名	2名	11名
20代	1名	0名	1名	2名
10代	4名	0名	0名	4名
合計	12名	11名	11名	34名

2.5 授業の様子

図1にWeb・動画クリエイター養成(空)コースの授業風景を示す。授業は主にコンピュータを用いた実習となる。実習は、講師が講師専用のコンピュータで操作した様子をプロジェクタや受講者のそばにあるモニター専用のディスプレイと前方の大型スクリーンに映し、随時説明を加えながら行う。この時、4名程度の補助スタッフが受講者の様子を見守り、操作に戸惑ったり、誤っていたりする場合にはすぐに援助するようにしている。



図1 Web・動画クリエイター養成(空)コースの授業風景

3. Web・動画クリエイター養成(空)コースの実施結果

平成21年度からこれまでにやってきたWeb・動画クリエイター養成(空)コースについて、受講生による講座の評価、および講座従事者(養成従事者)による講座の評価を示す。

3.1 受講生による作品

図2に受講生によって作成された作品の例を示す。これらはホームページに掲載する商品の例で(a)がカタログ、(b)が商品紹介イメージである。いずれもレイアウトを各自工夫し、Adobe Illustrator で作成したロゴ、イメージキャラクターや Adobe Photoshop で加工した画像が効果的に入っており、予想を上回る作品が完成した。

ホームページ作成には、Adobe Dreamweaver で制作したものを学内に構築した Web サーバにアップロードする形で制作した[9][10]。名刺の際に作成したロゴ、イメージキャラクターを使うことにより、名刺と統一感のあるホームページが完成した。レイアウトは CSS を利用し、メニュー部とコンテンツ部を分ける作品が多かった。中にはプログラミング言語を利用しスケジュール管理機能を持たせたり、動画 CM で作成した CM が再生できる機能を組み込んだりと、さまざまな情報を提示しているページもあった。

動画 CM については Adobe Premiere を使い編集し、素材はビデオカメラとデジタルカメラで撮影したものだけでなく、Illustrator で作成したロゴやキャラクターを使っていた。動画 CM 作成時に必要な動画や画像は比較的容易に素材を集めることが出来るが、ナレーションや BGM は収集・作成が難しい。平成 21 年度の作品ではこれらが効果的に設定されたものはほとんど無かったが、22 年度の作品では自分で演奏した BGM や優れたナレーションを用いた作品がいくつか出来るようになった。



(a)カタログ

(b)商品紹介イメージ

図2 受講生による作品の例

3.2 受講生(被養成対象者)によるアンケート集計結果

講座運営における課題把握と講座満足度向上のため、平成 21 年度、22 年度、平成 23 年度(途中)の受講生による講座のアンケート調査を行った。項目は、以下に示す から で、本校で実施している学生による教員評価項目に準じている。毎回の講座の終了時にアンケート調査を行い、5 段階評価(数字が高い場合が良い)で提出してもらった。

<p>アンケート調査項目</p> <p>講師の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか</p> <p>講師の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか</p> <p>講義は適切な進度ですすすめられていましたか</p> <p>講義の内容には、準備・工夫がなされていましたか</p> <p>配布資料は講義を理解するのに役立ちましたか</p> <p>授業を進める中で、疑問があれば質問しやすい雰囲気でしたか</p> <p>講義のレベルは適当でしたか</p> <p>講師は講義に対して意欲的で、熱意が感じられましたか</p> <p>この講義によって、起業に対するあなたの興味や関心が深まりましたか</p> <p>総合的に見てこの講義を高く評価していますか</p>

アンケート調査結果を図3に示す。この結果は、各回の講座の合計を平均した結果である。この結果から、平成21年度よりも平成22年度、更に平成23年度(年度途中であるため10回の平均)と、年を重ねる毎に評価点数向上傾向にあることがわかる。また、平成22年度に講義レベルが高いといった理由から5名の辞退者が出たが、これに関連する、「講義のレベルは適当でしたか」の評価は平成21年度、平成22年度ともに他の項目と比べ低い4.2という結果になっていた。平成23年度(10回までの平均)では4.6まで向上した。講義内容や講師に関してはいずれの年においても大きな変化がないため、このような受講者の評価の向上理由として

- ・ 平成23年度以降、受講説明会においてこの講座の学習内容を明確に説明したため、受講希望者がある程度技術的に対応可能かどうかを事前に十分考えられるようになった。
- ・ 受講希望者に対する面接時に、情報処理に関するアンケートや受講以前に作成したことのある作品を用いて受講者の技術レベルのチェックを行った結果、一定以上の技術を持った受講者が集まるようになった。

などが考えられる。

また、平成22年度から始めた特別コース(Web基礎)においては、全て4.5以上の評価を得ており、高い評価が認められる。

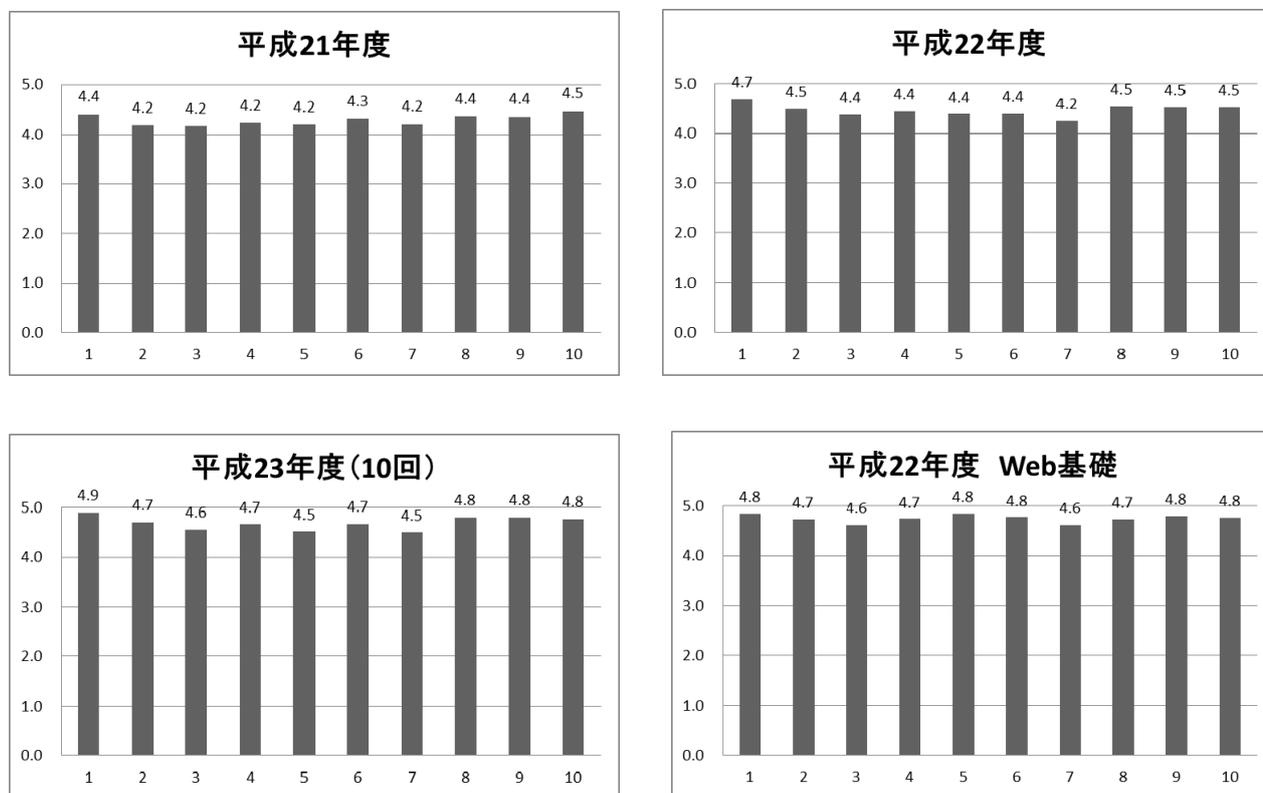


図3 Web・動画クリエイター養成(空)コースの受講生アンケート結果(受講生平均)

3.3 受講修了生の事業プランとコメント

ここでは事業内容が明確で、既に事業を始めている、あるいは、もうすぐ事業を開始する予定の受講者を対象に、事業内容と進捗状況を表6に示す。

表6の5名のなかでホームページの作成・運営をビジネスとする受講生が番号2, 5の2名で、これらの受講生は優れた作品を完成させることができた。

その他の3名は、家族または知り合いと一緒に事業を始めており、その事業拡大のための情報発信を自分でするために受講した人である。新たな情報発信を事業拡大に結びつけるためには相当な仕事量が必要になるため、これらの時間と労力を確保することが今後の課題となる。

表 6 受講生の事業プラン

番号	受講年度	性別年代	所属等	事業内容・事業進行状況
1	平成 21 年	50 代 男性	介護事業所経営	■事業内容 町内での介護事業所の運営 ■事業進行状況 これまで行ってきた介護事業に加え、近年小規模多機能ハウスの運営にも進出。空コースで学んだスキルを活用し、事業に関する情報発信を強化。
2		40 代 男性	会社員	■事業内容 知人と共同でホームページ作成、運営のビジネスを起業 ■事業進行状況 友人がすでにビジネスを開始。コースで習得した技術を持って、共同運営に加わる予定。
3	平成 22 年	30 代 女性	醤油醸造所を家族で運営	■事業内容 Web サイトを使った自家製品の拡販 ■事業進行状況 現在利用中の Web サイトの充実とそれを使った拡販を計画中。
4		30 代 男性	建設会社を経営	■事業内容 土地建物の情報提供 ■事業進行状況 既に事業を展開。会社のホームページを見てもらう人の側から作り直すことを検討中。
5		60 代 女性	経理とホームページ作成のための有限会社を夫と運営	■事業内容 有限会社データサプライでのホームページ作成 ■事業進行状況 自社のホームページを作成済み。今後、この会社の事業内容にホームページ作成を追加。

3.4 養成従事者(講師)による運営の反省点

養成従事者を対象にアンケート調査を行った。調査項目は、12 項目(実施コンセプト、講義日程、講義内容、スタッフ、講師、場所や設備、実施方法、講義資料、成果、受講生の募集、受講生の決定)についての自由記述である。

初年度の平成 21 年度の Web・動画クリエイター養成(空)コース 1 年目の反省点として、「受講希望者が多く、断らざるを得なかった」、「修了要件の中に作品の質についての条件が記されていない」、「受講生の能力にバラつきがある」、「受講生が当初の予定ほど自習や補講に来なかった」等の意見が挙がった。これらの問題は、コースが求める受講者のスキルと受講者が事前に持っていたスキルとの差が大きいことが最も大きな原因である。

この問題に対し、平成 22 年度からは事前に作成したことがある印刷物や動画 DVD、ホームページなどを持参してもらい、受講前のスキルをチェックし、十分なスキルがない場合は、Web 基礎コース(特別講座)の方へまわってもらうようにした。その結果、平成 22 年度においては、養成従事者からのアンケート結果では、これらの問題が挙がることはなかった。

4. Web・動画クリエイター養成(空)コースの今後の展望

5 年間の文部科学省科学技術振興調整費・地域再生プロジェクト島スクエアは来年度(平成 24 年度)が最終年度となる。このため、このプロジェクトが終了した後も地域再生人材創出拠点として自立した運営を行うことができる方策を確立することが求められている。幸い、Web・動画クリエイター養成(空)コースは学内教職員中心の講師陣でありかつ、養成に必要な設備なども整っているため、本校のセシーズを十分に活かした運営が可能であると思われる。

本コースの受講者将来像には、「インターネットサイトの構築・運営をビジネスにする人」、「インター

ネットを活用して事業者のビジネスを活性化する人」の2つがある[8-10]。前者の将来像を実現できる人物になるには非常に高度なスキルが必要で、この養成にはコストや時間がかかる。また、このような人達に必要なスキルと後者の将来像を実現したい人達に必要なスキルレベルとの間には大きな開きがある。この様なスキルに大きな格差がある受講者を同時に教育するため、講師の他に補助スタッフとして4名を用意し、講義をサポートしてきた。しかしながら、プロジェクト終了後の自立した運営を考えた場合、これら2つの将来像を掲げることは非常に難しく、どちらかに絞る必要があると考えられる。今後どちらの将来像にするかは地域のニーズ、周防大島町の基本構想、運営にかかるコストなどを考慮して決定する必要がある。

5. 結言

文部科学省科学技術振興調整費・地域再生人材創出拠点の形成において、本校の地域再生プロジェクト島スクエアは、マイクロビジネスの増加による地域再生を実現するため活動してきた。このプロジェクトのWeb・動画クリエイター養成(空)コースでは、インターネットを活用して情報を映像で全国に発信できる人材を養成するカリキュラム構築を行い、平成21年度からこれまでに、34名の修了生(平成23年度修了生予定生を含む)を輩出してきた。表6の修了生以外の修了生も、体験学校ビジネスあるいはNPO活動など各自の事業のために情報発信を行っている。

謝辞

本活動は、文部科学省科学技術戦略推進費(旧名称:科学技術振興調整費)地域再生人材創出拠点の形成の補助事業として行った。記して、感謝の意を表す。

参考文献

- [1] 岡野内悟, 宮元章, 北風裕教, 「島スクエア」の活動と地域貢献への一考察, 平成23年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集, G-63, pp.125-126, 2011.
- [2] 吉留文男, 宮元章, 森脇千春, 山本信夫, 島スクエアジュニア - 人材育成のしくみの構築 -, 平成23年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集, G-614, pp.127-128, 2011.
- [3] 北風裕教, 山本信夫, 岡宅泰邦, 瀬戸内島嶼部における地域再生事業「島スクエア」, 映像情報メディア学会アントレプレナー・エンジニアリング研究会技術報告, Vol.34, No.51, pp.27-32, 2010.
- [4] 北風裕教, 岡野内悟, 石原良晃, 岡村健史郎, 幸田三広, 吉留文男, 岡宅泰邦, 地域再生人材創出拠点の形成「島スクエア」の中間報告, 大島商船高等専門学校紀要, 第43号, pp.1-12, 2010.
- [5] 北風裕教, 神田全啓, 岡宅泰邦, 地域再生を目的としたインターネットテレビ局の活動報告, 大島商船高等専門学校紀要, 第43号, pp.13-20, 2010.
- [6] 三原伊文, 石光冨介, 山口伸弥, 古賀英司, 嶋津裕樹, 内田誠, 藤本正明, 地域イノベーションを目的とするハイブリッドガラスボードの性能, 大島商船高等専門学校紀要, 第43号, pp.25-30, 2010.
- [7] 岡野内悟, 石原良晃, 岡村健史郎, 幸田三広, 吉留文男, 北風裕教, 岡宅泰邦, 「島スクエア」3年目の方針と実施状況, 大島商船高等専門学校紀要, 第43号, pp.31-34, 2010.
- [8] 北風裕教, 宮元章, 岡野内悟, 岡村健史郎, 岡宅泰邦, 地域再生を目的とした産学官連携の活動報告, 大島商船高等専門学校紀要, 第42号, pp.1-10, 2009.
- [9] 山海空コラボレーションみかん島再生クルー2008, 2009年度年間報告書, 2010.
- [10] 山海空コラボレーションみかん島再生クルー2010年度年間報告書, 2011.
- [11] Adobe ホームページ, <http://www.adobe.com/jp/>

